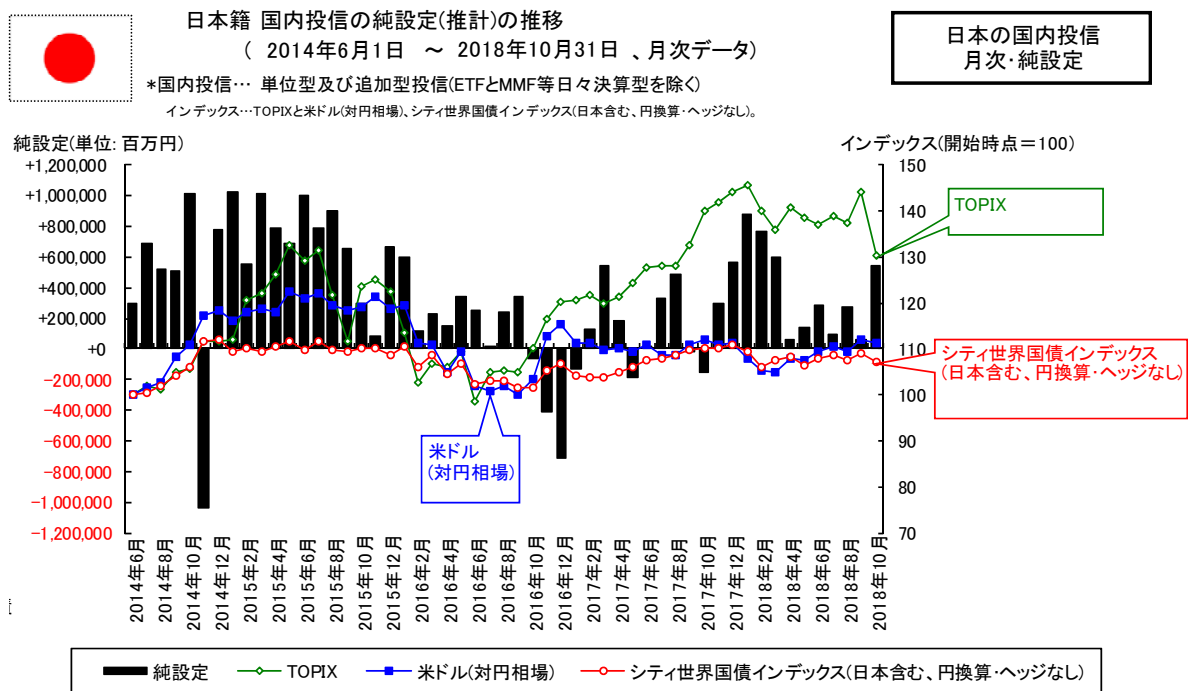


世界株安の中、投信フロー最新動向～既存投資家(投信全体)は日本株～

世界株安に見舞われた2018年10月、恒例のNISAでどのような投資が行われてきたかを見る。NISAでの投資でその半数近くを占めている投信の最新動向は、今後のNISA投資家に有用なものになると思われる。

「つみたてNISA」を含むNISAの投資対象となる投信(ETF含む)の最新2018年10月の動向を見る。まず投信の最新フロー(純設定)である。NISA投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分けて見る。NISAの「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、NISAの「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※1参照)で代替する。

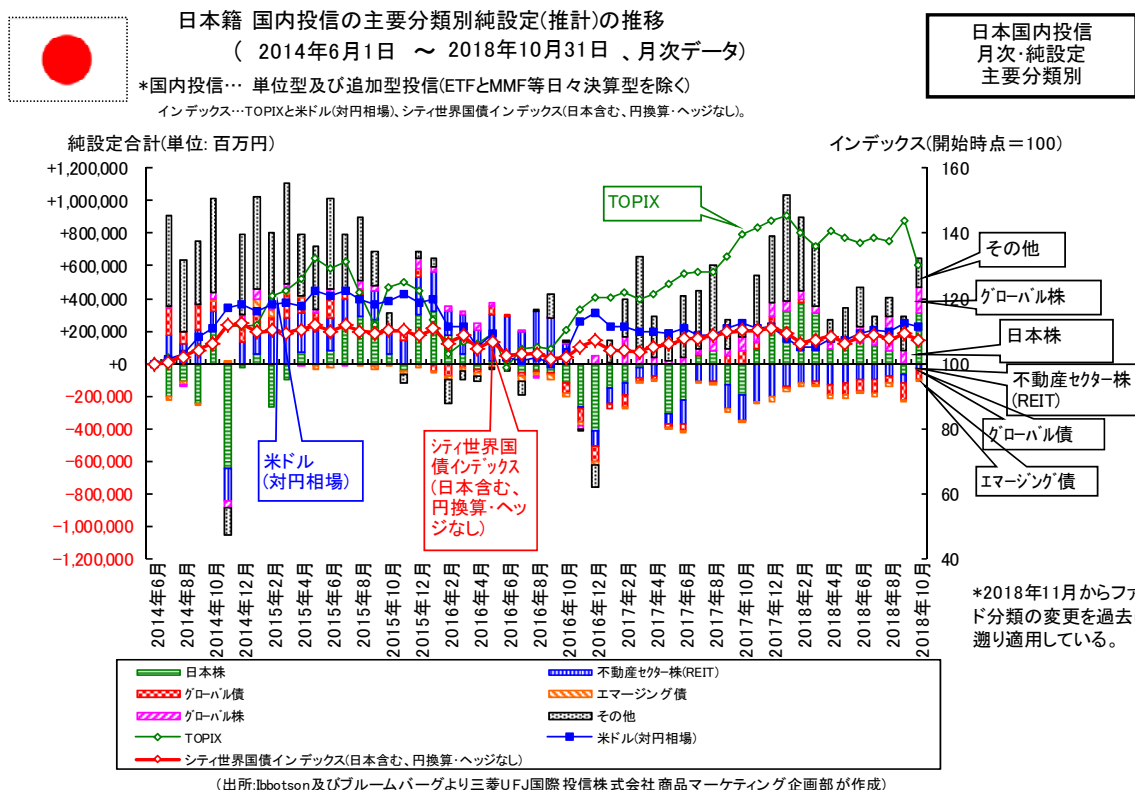
既存投資家(投信全体)の純設定は2018年10月に+5403億円と、2018年3月以来7カ月ぶりの5000億円超えで、12カ月連続の純流入となった。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

7カ月ぶりの大きさとなった既存投資家(投信全体)の純設定を、投資対象(主要分類～*)別で見る。2018年10月に最も純設定の大きかったのは日本株(前月9月74位)、ヘルスケア株(前月9月6位)、グローバル大型株(前月9月3位)、トレーディング・ツール(前月9月68位)、グローバル中小型株(前月9月18位)。

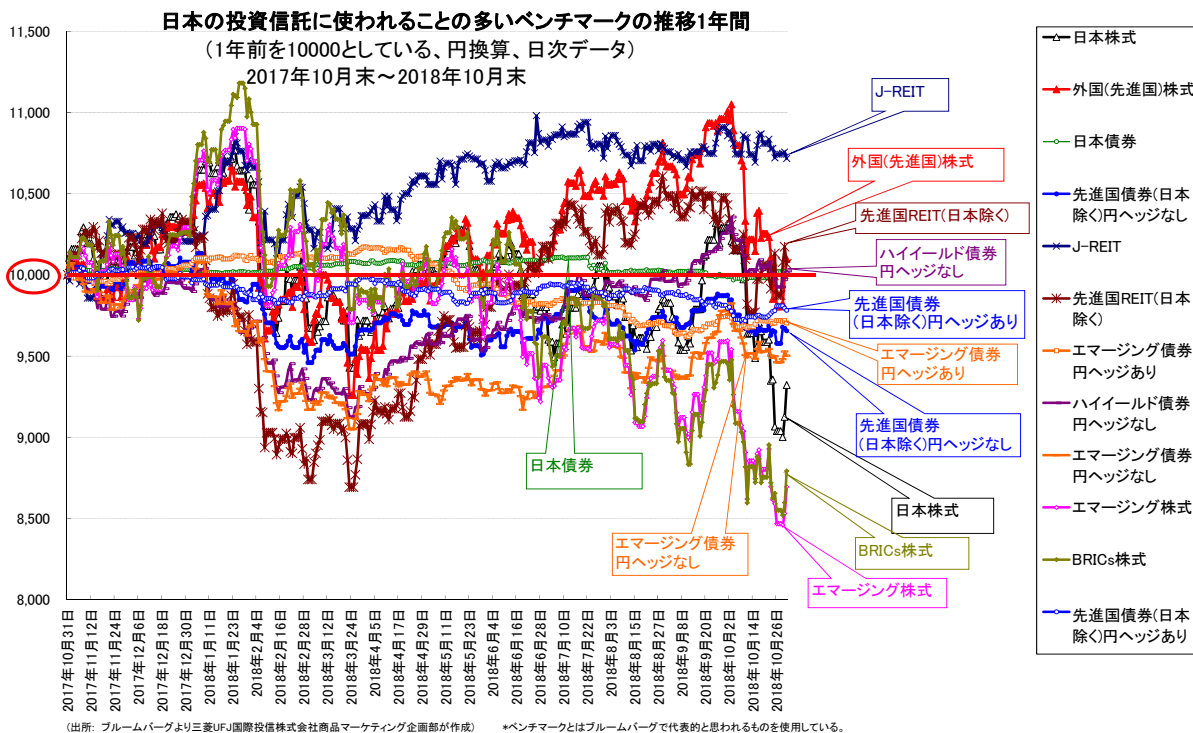
*主要分類…モーニングスターによる分類で2017年12月末の純資産の大きい上位5分類である。ヘルスケア株及びトレーディング・ツールは「その他」に含んでいる。尚、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれたが、それは「グローバル株」として合算する。



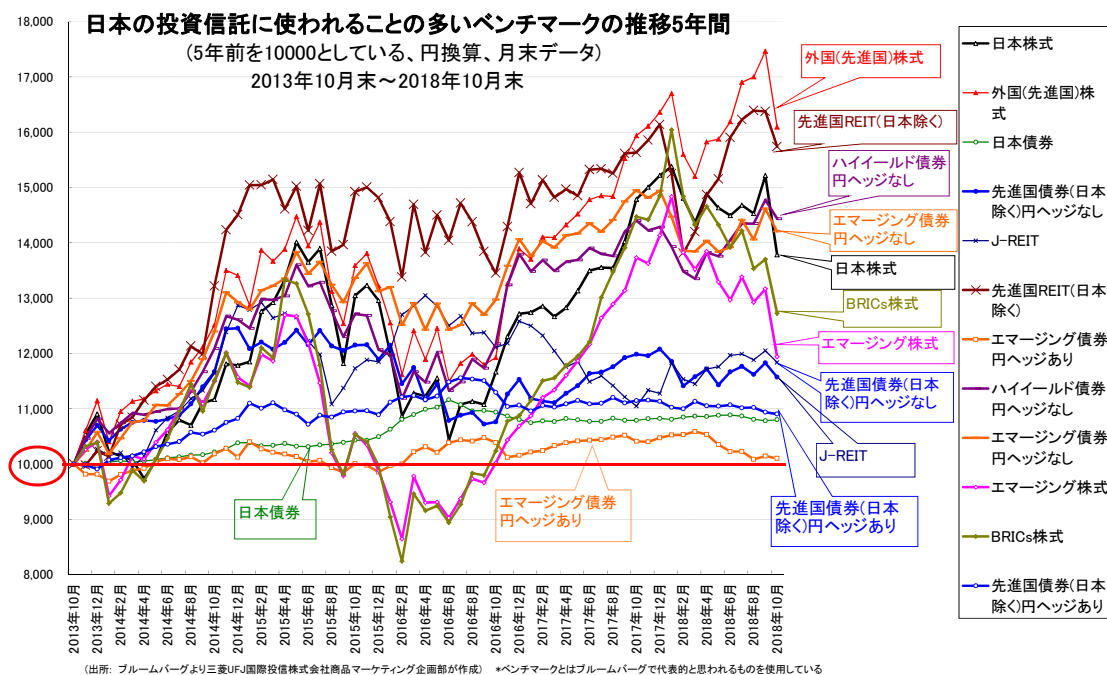
既存投資家(投信全体)で2018年10月に純設定が最も大きかった日本株は+3171億円と、前月9月(-644億円)から流入に反転、投信全体と同様2018年3月以来となる大きな純流入だった。前月9月は「日本の株高を受けて日経平均株価に連動するインデックス型(指数連動型)のファンドに利益確定の動きが出た。資金流出額上位10本のうち、2本が日経平均連動型だった。」(2018年10月1日付 QUICK~URL は後述[参考ホームページ]①参照)と出ていたが、2018年10月は、こうした日経平均連動型インデックスファンドが純設定の上位に並んだ。「株安のときに安値で買う「逆張り」の資金が流入したとみられる。」(2018年11月7日付日本経済新聞~URL は後述[参考ホームページ]①参照)と報じられている。

ここで日本の投信に使われることの多いベンチマークの2018年10月末までの1年間のパフォーマンス推移を見たものが次頁グラフである。パフォーマンスの好い順に、日本REIT、先進国株式、先進国REIT、ハイイールド債券円ヘッジなし、日本債券、先進国債券円ヘッジあり、エマーシング債券円ヘッジあり、となっている(*1年前を10000としている、円換算、日次データ)。

日本株のパフォーマンスは1年では、次頁ベンチマーク中、下から3番目だった(最も好くないのがエマーシング株式、2番目がBRICs株式)。先月2018年9月の1カ月では最も良かったが、10月の1カ月では最低だった。



下記グラフは5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国株式、先進国 REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング債円ヘッジなし、日本株式、BRICs 株式となっている(*5年前を 10000 としている、円換算、月末データ)。先進国株式は、5年で上記グラフのベンチマークで最も好いパフォーマンスとなっており、3年や1年では2番目に好いパフォーマンスだったが、2018年7月末からの3カ月では下から4番目、2018年10月の1ヶ月では下から3番目となっている。

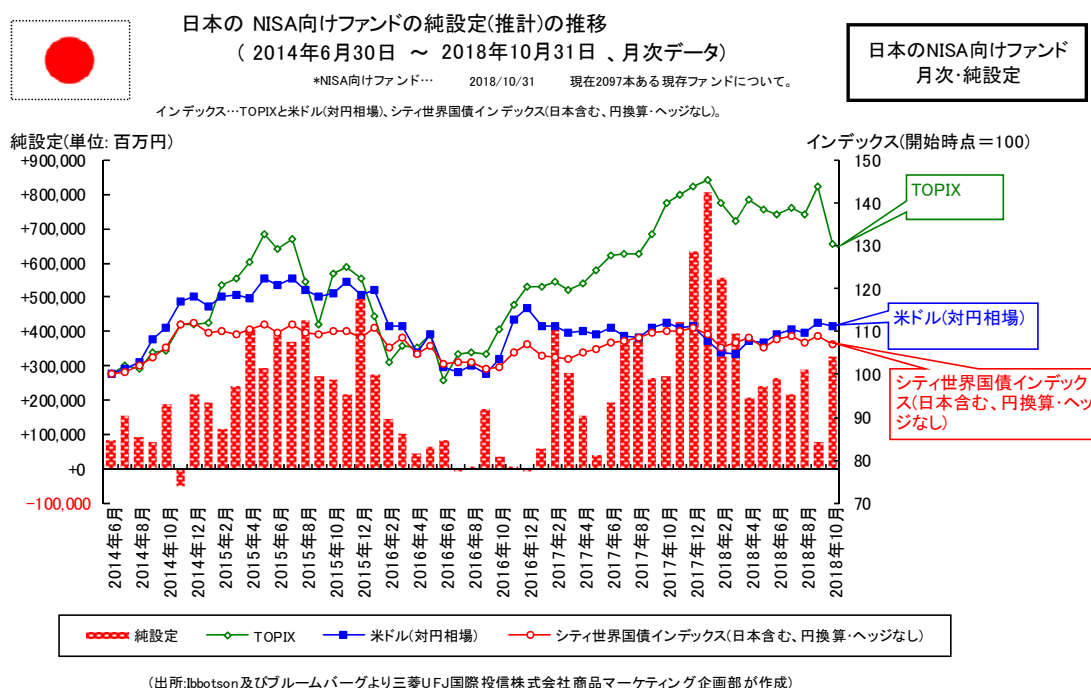


日本株に次いで10月の純設定が大きかったヘルスケア株は+1307億円と、前月9月(+368億円)を上回り、過去4年半で最も大きな純流入となり、5カ月連続の純流入だった(これまでの最大は2015年3月の+1191億円)。

これは10月に新規設定された世界各国の先進医療関連企業に投資するファンドによるところが大きい(当初設定額は4本合計614億円)。3番目に純設定の大きかったグローバル大型株は、10月に+1041億円と1年10カ月連続の純流入。

投信フロー最新動向～新規投資家(NISA向けファンド)は実質グローバル株～

次に新規投資家(NISA向けファンド)の純設定を見る。最新2018年10月は+3270億円と、前月9月(+796億円)を大幅に上回る2018年3月以来7カ月ぶりの大きな純流入で、2017年1月から1年10カ月連続の純流入。



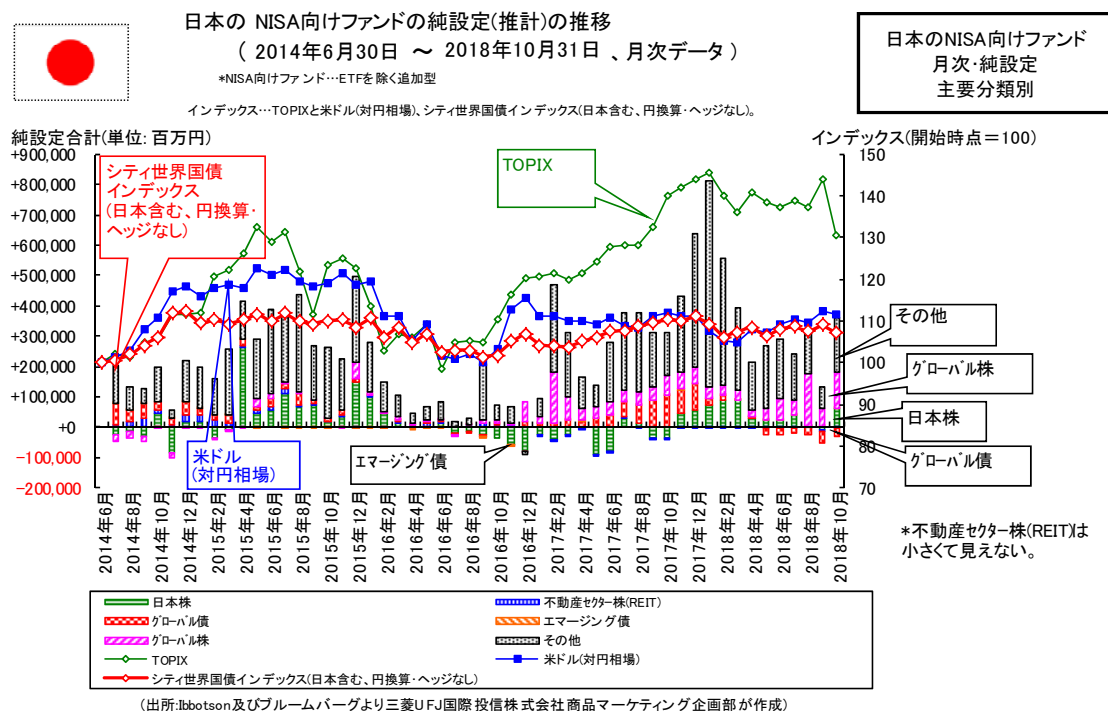
※1: 「NISA向けファンド」…

投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。

投資信託協会は「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」とも言っている(URLは後述[参考ホームページ]③参照)。

尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1～2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1～2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1～2回以外を除いている(*マネー・プールは年1～2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2018年10月31日時点で2097本となった。

この新規投資家(NISA 向けファンド)を投資対象(主要分類)別で見ると、最新 2018 年 10 月の純設定 1 位はヘルスケア株(前月 9 月 2 位)、2 位はグローバル大型株(前月 9 月 1 位)、3 位はトレーディング・ツール(前月 9 月 65 位)、4 位は日本株(前月 9 月 64 位)、5 位はグローバル中小型株(前月 9 月 19 位)だった(下記グラフ参照、主要分類…モーニングスターによる分類で 2017 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類。ヘルスケア株及びトレーディング・ツールは「その他」に含む。2018 年 11 月 1 日付ファンドのグローバル分類変更に伴い、グローバル大型株及びグローバル中小型株は「グローバル株」に含む)。



2018 年 10 月に純設定最大だったヘルスケア株は実質グローバル株なので、2 位グローバル大型株や 5 位グローバル中小型株も合わせたグローバル株(+2370 億円)が 10 月の NISA ファンド全体の純設定の約 7 割を占めることとなる。日本株は、10 月は+584 億円と、既存投資家(投信全体)と同様、2 ヶ月ぶりの純流入で、2018 年 3 月以来の大きな純流入となった。

投信フロー最新動向～つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)は日本株～

最後に、つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)の純設定を見ておく(*つみたて NISA 適格投信なので、つみたて NISA 以外で購入された分も含む、ETF を除く～つみたて NISA 適格投信については後述[参考ホームページ]④参照)。

純設定は、最新 2018 年 10 月に+1064 億円と、前月 9 月(+120 億円)を大幅に上回り、つみたて NISA が開始した 2018 年 1 月(+1320 億円)に次いで大きな純流入となった。このつみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)を投資対象(主要分類)別で見ると、最新 2018 年 10 月の純設定 1 位は日本株(前月 9 月は最下位、8 月まで 3 ヶ月連続 1 位)、2 位グローバル大型株(前月 9 月は 1 位)、3 位は米国大型株(前月 9 月 3 位)、4 位はアセットアロケーション積極型(前月 9 月は 2 位)、5 位はアセットアロケーション慎重型(8 月から連続 5 位)だった。

以上、既存投資家(投信全体)でも、つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)でも、日本株が人気であり、

新規投資家(NISA 向けファンド)などで引き続きグローバル株人気も見られた。 今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URL は後述[参考ホームページ]⑤参照)が多いと思われる NISA 等を検討する投資家に少しでも参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

①2018年10月1日付 QUICK 「9月の投信、日経平均連動型から資金流出 利益確定で」…

「 <https://www.quick.co.jp/3/article/13481> 」、2018年11月7日付日本経済新聞「10月の投信、5800億円の資金流入超に」…「 <https://www.nikkei.com/article/DGXNZ03735920005112018000000/> 」。

②2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」。

③2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…

「 <http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/> 」、2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…「 <https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/> 」。

④2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立 NISA の適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…

「 https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf 」。

⑤2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…

「 <http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/> 」、2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…「 <https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/> 」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「 <https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html> 」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

○当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

○当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

○当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

○当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。

○投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

○投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

○投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

○投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

○クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

○投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。